



2026 年 10 月 15 日

各 位

会 社 名 スターシーズ株式会社
代表者名 代表取締役社長 鈴木 雅順
(東証スタンダード・コード:3083)
問合せ先 管理本部長 竹谷 治郎
(TEL.03-6721-5891)

連結子会社スターシーズデジタル株式会社の事業戦略説明資料の公表に関するお知らせ

当社は、当社の連結子会社であるスターシーズデジタル株式会社（以下「SSD」といいます。）の事業戦略に関する説明資料「スターシーズデジタル 事業戦略 ― GPU サーバー販売から、GPU クラウド事業者へ ―」（以下「本資料」といいます。）を作成いたしましたので、別添のとおりお知らせいたします。

記

1. 本資料の作成・公表の目的

本資料は、2025年9月のSSD設立以降、当社が適時開示等により個別に公表してまいりました同社に関する各種情報（取引先との基本契約・基本合意書の締結、国内生産体制の構築、米国展開の準備、資金調達及び業績予想の修正等）を一覧性のある形で整理し、同社の事業の現状及び今後の事業戦略の全体像について、株主・投資家の皆様のご理解を深めていただくことを意図して作成したものです。

SSDが営むGPUサーバー等事業は、当社連結業績の主要な牽引役となっております。当社は、同社の事業内容と成長の方向性を、すべての株主・投資家の皆様に対し正確かつ公平に周知するために、本資料を公表することといたしました。

2. 本資料の位置付け

本資料は、既に公表済みの情報に基づいて作成したものであり、新たな決定事実又は発生事実を開示するものではありません。また、本資料に「協議中」「推進中」「準備中」「構想」等と記載した事項は、いずれも契約等が確定したものではありません。

3. 今後の見通し

本資料の公表による当社の2027年2月期通期連結業績予想（2026年9月8日公表）への影響はありません。本資料に記載の取組みについて、今後開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上

Sovereign AI, Made in Japan.

スターシーズデジタル 事業戦略

GPUサーバー販売から、GPUクラウド事業者へ

スターシーズデジタル株式会社（スターシーズ株式会社 連結子会社・東証スタンダード 3083）

2026年10月 公表済み情報に基づく事業説明資料

Starseeds Digital, Inc.

エグゼクティブサマリー：販売で築いた基盤の上に、国内生産とGPUクラウドで事業の質を変える

01 販売基盤の確立

2025年9月の設立以来、GPUサーバー等の販売が親会社の連結業績を牽引。2027年2月期の通期予想は期初から2度上方修正され、売上高350億円・営業利益16億円へ。NDAA準拠GPUサーバーとコンテナ型液冷ユニットを共通パッケージとして国内・米国へ展開します。

02 国内生産が量産段階へ

2026年10月、加賀電子と委託生産協業の基本契約を締結し、国内工場での2026年12月までの量産開始を目指します。「メイド・イン・ジャパン」のAIサーバーは、納期・品質・地政学リスク対応の差別化軸であり、米国輸出の基盤でもあります。

03 GPUクラウド事業者へ

当社はAIコンピューティングリソースの運用を中核とし、GPUクラウド等のGPU関連サービスの提供を事業領域に掲げています。2026年10月、シーイーシーとGPUサーバー向けデータセンター・GPUクラウド関連事業の事業化に向けた包括的基本合意書を締結し、協議を開始しました。

出典：スターシーズ株式会社 適時開示（2026年9月8日 業績予想修正、10月2日 シーイーシーとの基本合意、10月5日 加賀電子との基本契約）

数字で見る現在地：GPUサーバー等事業が連結業績の成長を牽引

スターシーズ株式会社の公表数値（連結）。GPUサーバー等事業は参入から1年で主要セグメントに成長しました。

350億円

2027年2月期 売上高予想

期初予想260億円から2度の
上方修正（2026年9月8日時
点）。前期実績103.8億円

16億円

2027年2月期 営業利益予想

前期実績1.8億円から大幅増
益を見込む。経常利益12.5
億円、当期純利益6.8億円

6か月以内

受注から納品までの体制

台湾大手ODMとの取引関係
による。BTO（受注生産）
で在庫リスクを抑制

55.5億円

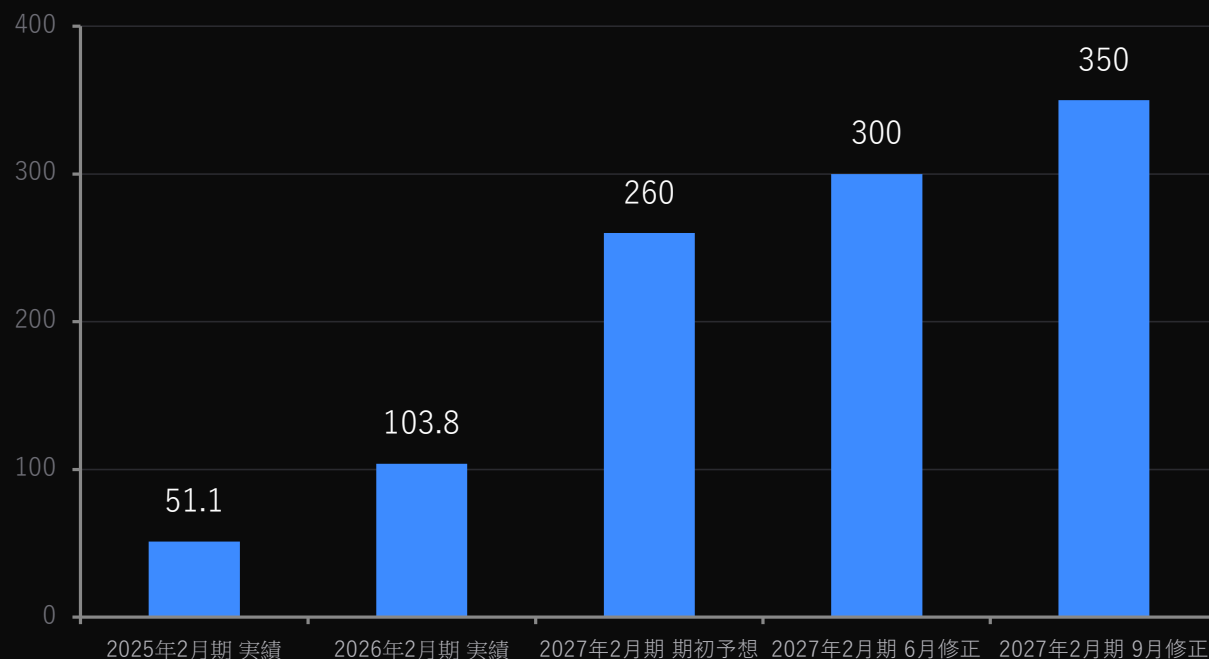
AI DC事業向け投資原資

第8回～第10回新株予約権
の資金使途として明記され
た設備投資・運転資金

出典：スターシーズ株式会社 適時開示「2027年2月期通期連結業績予想の修正」（2026年9月8日）、「第8回～第10回新株予約権の発行」（2026年6月8日）、スターシーズデジタル公式サイト

業績の軌道：2期で売上高は約7倍、通期予想は期初から2度の上方修正

スターシーズ株式会社 連結売上高の推移（単位：億円）。2027年2月期は2026年9月8日公表の会社予想。



営業利益の推移（億円）

2025年2月期 実績 △2.8

2026年2月期 実績 1.8

2027年2月期 会社予想 16.0

9月の上方修正の主因は、個別開示案件に加え、開示基準未満のGPUサーバー案件が着実に積み上がったことです。

出典：スターシーズ株式会社 決算短信（2026年2月期）、業績予想修正に関する開示（2026年4月17日、6月25日、9月8日）。予想数値は会社予想であり、実績を保証するものではありません

公表IRの歩み：13か月で調達・液冷・国内生産・米国・GPUクラウドの基盤を揃えた

● 2025年9月

スターシーズデジタル設立

スターシーズ60%出資。GPUサーバー等の販売事業に参入

● 2025年12月

Inventec・マイタックと基本契約

台湾大手ODM等との商品取引基本契約。調達チャネルを確立

● 2026年3月

液冷AI DCソリューション覚書

Castrol等と協業検討の覚書。直接液冷（DLC）技術を獲得

● 2026年5月

AIサーバー国内生産方針を公表

EMS企業との連携による国内生産体制の構築を発表

● 2026年6月

米国子会社の設立準備・新株予約権

Starseeds US, Inc.（仮称）設立準備。AI DC向け55.5億円の資金使途

● 2026年7月

Ricloud AI Inc.と基本合意

サンノゼのデータセンター事業者とAI DC・GPUインフラで協業

● 2026年9月

通期業績予想を上方修正

売上高350億円・営業利益16億円へ。主因はGPUサーバー等事業

● 2026年10月

シーイーシーと包括的基本合意

GPUサーバー向けDC・GPUクラウド関連事業の事業化へ協議開始

● 2026年10月

加賀電子と委託生産の基本契約

国内工場で2026年12月までの量産開始を目指す

出典：スターシーズ株式会社 適時開示・プレスリリース（2025年9月～2026年10月）。詳細は最終ページの出典一覧をご参照ください

事業環境：三つの構造変化が、液冷・NDAA準拠・国内生産への需要を同時に押し上げる

1 冷却と電力の物理的境界

液冷は「選択肢」から「前提」へ

最新世代のGPUラックは発熱量が空冷の対応範囲を超え、液冷なしではGPUを稼働させられない段階に入りました。米国では主要集積地で系統連系の待機が長期化し、日本でも都市部集中と電力偏在が課題です。電力を増やせないなら密度を上げる。その答えが液冷です。

2 サプライチェーンの分断

非中国系エコシステムの構築が急務

NDAA Sec.889等により、米国の連邦・金融・医療・防衛関連調達から中国系ハードウェアは事実上排除されています。米国輸出管理規則（EAR）の強化とあわせ、台湾・日本を軸とする信頼できるサプライチェーンの価値が高まっています。

3 Sovereign AIと地方分散

国家・機関がAIインフラの所有と透明性を求める

各国政府・機関はAIインフラの所有権と透明性を重視し、日本政府もデータセンターを戦略分野として地方分散を推進。国内でも大型AIデータセンター計画が相次ぎ公表されています。コンテナ型で即時増設できる液冷ユニットは、この流れと相性の良い製品です。

当社認識に基づく事業環境の整理（2026年10月時点）

当社の強み：NDAA準拠・液冷・国内生産・コンテナ型の四条件を一社で満たす

差別化は主観ではなく、公表済みの事実の組み合わせで語ります。四つを束ねた「NDAA準拠GPUサーバー＋コンテナ型液冷ユニット」が共通パッケージです。

1 NDAA準拠サプライチェーン

台湾大手ODM（Inventec・MiTAC等）からNDAA準拠形態で調達・アSEMBル。米国の連邦・金融・医療機関向け提案の前提条件を満たします。

2 液冷のエンドツーエンド提供

2026年3月、液冷AIデータセンターソリューションに関する協業検討の覚書を締結。GPUサーバーと液冷CDUを一体で設計・供給します。

3 国内生産（メイド・イン・ジャパン）

2026年10月、加賀電子と委託生産の基本契約を締結し、国内工場での量産へ。品質・納期・地政学リスク対応・保守で優位に立ちます。

4 コンテナ型の即時増設

コンテナ型データセンターを製品ラインナップに保有。既存施設の敷地やデータホールへの持込型増設を可能にします。

出典：スターシード株式会社 適時開示（2025年12月、2026年3月、2026年10月）、スターシードデジタル公式サイト

事業戦略：共通パッケージを四つの事業領域へ展開し、販売基盤の上にインフラ事業を築く

共通パッケージ NDAA準拠GPUサーバー + コンテナ型液冷ユニット（DLC・CDU） + 構築・運用保守

A GPUサーバー販売

顧客 国内外DC事業者・通信事業者・Sler

収益 機器販売（BTO受注生産）

現状 稼働中。連結業績の主要ドライバー

B 国内AIインフラ・GPUクラウド

顧客 既存DC事業者・AIクラウド事業者・オンプレ需要企業

収益 機器販売 + 構築 + 運用保守、GPU利用料

現状 シーイーシーと事業化を協議中。持込型増設モデルを推進

C 米国展開

顧客 米国DC事業者・連邦・金融・医療機関

収益 機器販売 + マネージドIaaS課金

現状 米国子会社設立準備。Ricloud AIと基本合意

D 日本製サーバー輸出

顧客 海外DC事業者・政府系機関

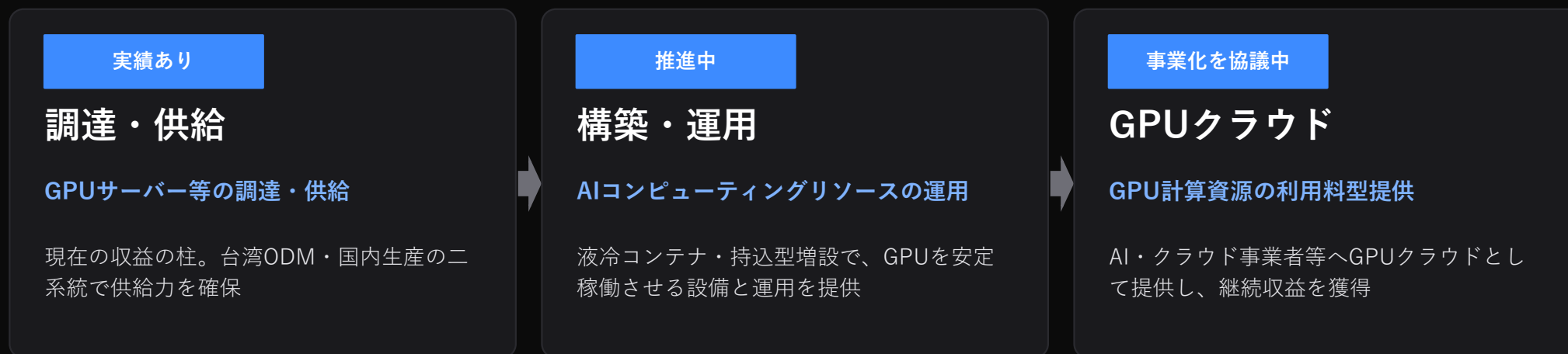
収益 輸出版売

現状 国内生産品の米国輸出を構想（Ricloud AI協業の枠組み）

四つは独立した事業ではなく、同じ製品パッケージを市場別に展開する一つのエコシステムです。「協議中」「推進」「構想」は契約が確定したものではありません

GPUクラウド事業者へ：当社の中核は「AIコンピューティングリソースの運用」

当社は、AIコンピューティングソリューションの提供とAIコンピューティングリソースの運用を中核に、GPUクラウド等のGPU関連サービスの提供、AIサーバー・GPUサーバーの調達・供給を事業として展開しています。



GPUクラウド事業者を目指す意味 機器販売は売り切りで終わりますが、GPUクラウドは利用料として収益が継続し、顧客との関係も長期化します。設備供給者から運営者へ立場を広げることが、販売会社からAIインフラ企業への転換の核心です。

出典：シーイーシー・スターシーズデジタル プレスリリース（2026年10月2日）の当社事業内容の記載。GPUクラウド事業の時期・規模は未定で、業績予想には含みません

シーイーシーとの包括的基本合意：GPUサーバー向けデータセンターとGPUクラウドの事業化へ

2026年10月2日、株式会社シーイーシー（東証プライム 9692）と、GPUサーバー向けデータセンターおよびGPUクラウド関連事業の事業化に向けた協業について包括的基本合意書を締結しました。

シーイーシー

データセンターの構築・運用、クラウドサービスの提供を通じて培った、高度なデータ管理とプライバシー保護を担保するデータセンターインフラの知見

×

スターシーズデジタル

GPUクラウド・AIコンピューティングリソースの運用、およびGPUサーバー等の調達・供給に関する知見



目指す事業

GPUサーバー向けデータセンター
＋
GPUクラウド関連事業

想定顧客：AI・クラウド事業者等

今後の協議事項 事業機会の創出、サービス・提供体制、事業条件の具体化を進め、早期の事業化を目指します。業績への影響は精査中です。

出典：スターシーズ株式会社 適時開示「株式会社シーイーシーとの包括的基本合意書締結に関するお知らせ」（2026年10月2日）、シーイーシー プレスリリース（同日）

国内生産：加賀電子との委託生産で、2026年12月までの量産開始を目指す

2026年10月5日、加賀電子株式会社（東証プライム 8154）と「委託生産協業に関する基本契約書」を締結。5月に公表した国内生産方針が、約半年で実行段階に入りました。

役割分担

スターシーズグループ

製品の企画・設計、GPUの調達、製品販売。工場改装費用を負担し、製造設備を取得して加賀電子に貸与（所有権は当社グループ）

加賀電子

取引先である国内大手電子機器メーカーの工場設備を活用。部材管理、製造・組立・検査・梱包、完成品管理、GPU以外の部材調達

国内生産がもたらす四つの価値

納期

海外生産依存によるリードタイム長期化を解消

品質

受入検査から出荷検査までの品質管理体制を構築

地政学

「メイド・イン・ジャパン」でNDAA準拠・原産地の信頼を補強

輸出

国内製造サーバーを米国へ輸出し、コンテナ型液冷と組み合わせて展開する構想

出典：スターシーズ株式会社 適時開示「加賀電子株式会社との委託生産協業に関する基本契約書締結」（2026年10月5日）、「Ricloud AI Inc.との基本合意書締結」（2026年7月24日）。量産規模・納期は協議中です

米国展開：米国子会社を契約主体、当社を製品供給者として一体運営する

2026年6月に米国子会社（仮称 Starseeds US, Inc.）の設立準備を開始し、7月にRicloud AI Inc.（カリフォルニア州サンノゼ）と基本合意書を締結しました。

米国子会社（設立準備中）

米国顧客との契約主体。現地パートナーとの協業の窓口となり、現地での据付・運用、IaaS課金を担います。

スターシーズデジタル

製品供給者。国内生産・台湾ODM調達・液冷CDU設計を担い、NDAA準拠の文書とともに米国へ供給します。

Ricloud AI Inc.

サンノゼでデータセンターを運営。同社顧客へのGPUサーバー・AIコンピューティング提供から着手し、米国子会社との連携可能性も含めて協業を進めます。

米国市場で狙う二つの顧客層

既存データセンター事業者

電力制約の中で密度を上げたい事業者へ、NDAA準拠液冷クラスターをターンキーで増設

連邦・金融・医療機関

NDAA準拠が調達要件となる機関へ、マネージドIaaSとして提供

出典：スターシーズ株式会社「米国子会社設立に向けた準備開始に関するお知らせ」（2026年6月29日）、「Ricloud AI Inc.との基本合意書締結のお知らせ」（2026年7月24日）

成長の方向性：売上規模から収益性、そして継続収益へ — 企業価値評価の前提を変える

「仕入れて売る」販売会社にとどまらず、サーバーからデータセンター、GPUクラウドまでを一社で提供するAIインフラ企業へ。三つの段階は順番ではなく並行して進めます。

第1段階

売上高

売上規模の積み上げ

現在進行中

最新世代GPUサーバーの大型案件を継続獲得。開示基準未満の案件の積み上がりが、9月の上方修正の主因となりました。

第2段階

利益率

収益性の向上

クラスター一式への転換

受注単位をサーバー単体から、液冷CDU・ネットワーク・構築・保守を含む「クラスター一式」へ。国内生産による原価最適化とあわせ、利益率改善を目指します。

第3段階

ストック収益

継続収益の獲得

GPUクラウド事業者へ

運用保守（O&M）、GPU利用料、マネージドIaaS、長期利用契約といったストック型収益を積み上げ、設備供給者から運営者へ。シーイーシーとの協業で、GPUクラウド関連事業の事業化を協議しています。

目指す姿 GPUサーバー販売会社 → AIインフラ構築・運用 → GPUクラウド事業者（時期・規模は未定、業績予想には含みません）

本頁は事業の方向性を示すものであり、数値目標ではありません。業績予想はスターシーズ株式会社の適時開示をご参照ください。

資金基盤：親会社が調達した55.5億円を、データセンター構築からGPUインフラへ規律をもって投じる

スターシーズ株式会社は2026年6月に第8回～第10回新株予約権の払込を完了し、資金使途としてAI DC事業向け設備投資・運転資金5,552百万円（当社への貸付）を明記しています。

5,552百万円

AI DC事業向け設備投資・運転資金

第8回～第10回新株予約権の資金使途として開示。スターシーズ株式会社から当社への貸付として投下

1

データセンター構築

コンテナ型液冷ユニットの製造と、既存施設への持込型増設

2

GPUインフラ

持込型案件向けGPUサーバーの調達と、米国子会社と連携した米国展開の立上げ

3

運転資金

GPUサーバー大型案件の前渡金と、受注から納品までの資金ギャップの充当

出典：スターシーズ株式会社 適時開示「第三者割当による第8回～第10回新株予約権の発行」（2026年6月8日）、「払込完了に関するお知らせ」（2026年6月25日）

今後の注目ポイント：公表済みの計画が、これから実行段階に移る

いずれも開示済みの方針・契約に基づく取り組みです。進捗はスターシーズ株式会社の適時開示を通じてお知らせします。

1 シーイーシーとの事業化

GPUサーバー向けデータセンターとGPUクラウド関連事業について、サービス・提供体制・事業条件を具体化し、早期の事業化を目指します。

2 国内生産品の量産開始

加賀電子との委託生産により、2026年12月までの量産開始を目指します。「メイド・イン・ジャパン」AIサーバーの出荷が始まります。

3 米国子会社の設立

設立準備中の米国子会社を契約主体に、Ricloud AI社との協業を具体化。日本製サーバーの米国輸出モデルを構想しています。

4 クラスター一式への受注転換

GPUサーバー単体から、液冷CDU・ネットワーク・構築・保守を含む受注へ。利益率改善の第一歩です。

出典：スターシーズ株式会社 適時開示（2026年6月29日、7月24日、10月2日、10月5日）。記載の取り組みは計画であり、時期・内容は変更となる可能性があります

将来見通しに関する注意事項・出典

本資料に記載された計画、戦略、見通しその他の将来に関する記述は、作成時点で入手可能な情報に基づく当社の判断であり、将来の業績や事業の成否を保証するものではありません。実際の結果は、市場環境、為替、調達・納期、規制（NDAA・EAR・外為法等）の適用、取引先との協議状況など様々な要因により、記載内容と異なる可能性があります。「協議中」「推進中」「準備中」「構想」と記載した事項は、いずれも契約や認定が確定したものではなく、シーイーシーとの基本合意による業績への影響は精査中です。

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。業績予想はスターシーズ株式会社の会社予想であり、同社の適時開示およびIR情報をご確認ください。

出典

- スターシーズ株式会社 適時開示：子会社設立（2025年9月5日）、Inventec・マイタックジャパンとの商品取引基本契約（2025年12月22日・23日）、液冷AIデータセンターソリューション覚書（2026年3月19日）、新株予約権発行・払込完了（2026年6月8日・25日）、米国子会社設立準備（2026年6月29日）、Ricloud AI Inc.基本合意書（2026年7月24日）、通期連結業績予想の修正（2026年4月17日・6月25日・9月8日）、シーイーシーとの包括的基本合意書（2026年10月2日）、加賀電子との基本契約（2026年10月5日）
- スターシーズ株式会社 プレスリリース「AIサーバー国内生産及びAIインフラ供給体制構築の現状に関するお知らせ」（2026年5月26日）、決算短信（2026年2月期）、株式会社シーイーシー プレスリリース（2026年10月2日）
- スターシーズ株式会社 公式サイト（starseeds.co.jp）、スターシーズデジタル株式会社 公式サイト（starseeds-digital.co.jp）